

「茶友と行くともつと楽しい」

と、茶会の  
トコロを探したい

茶の湯が元気な街

# 瀬戸内へ

「瀬戸内の茶の湯文化が面白い」。かねてからそんな噂を

耳にしていた、漆芸家・村瀬治兵衛氏夫人の亜里さん。

茶の湯友達の大村万里子さんと一緒に

香川から直島、岡山を巡る旅に出掛けました。

都内の自宅で50年以上続けている月釜に

刺激をもらうこと、そして旅の出会いを持ち帰って

茶会を開くことを期待して――。

企画&メイク、着付け＝松原志津枝 協力＝桶田俊二



1日目

am 10:00

香川県高松市

〔木型工房市原〕

# まずは オリジナルの 木型をオーダー

「マイ木型」で茶会のお菓子作り。  
さまざまなおアイデアが膨らみます」



茶の湯アドレス 16



## 木型工房市原

香川県高松市花園町1-17-130

☎0877-866-1371

http://www.8.tiki.ne.jp/~kigata

※工房見学は事前の予約制。

オリジナル木型は

5連38,000円。

製作期間1カ月ほど

旅をしたのは……

漆芸家の村瀬治兵衛氏夫人で、小誌でも人気の工芸ブランド「嘉門工芸」を主宰する村瀬亜里さん（裏千家）と、表千家でお茶を学ぶ大村万里子さん。陶磁史研究家・林屋晴三氏のライフワークである「茶の湯同好会茶会」の水屋を、ともに手伝う仲。

四国でただ一人の菓子木型職人である市原吉博さん（中央）の工房を訪れた村瀬さん（左）と大村さん（右）。市原さんが提案するオリジナルの木型と香川県の名産・和盆で作る干菓子に、興味津々の村瀬さん。木型のデザインを3人で相談中。



茶の湯アドレス17



**永楽亭**

香川県丸亀市城東町1-8-9  
 ☎0877-241-0299  
 ⑨11時30分〜13時30分  
 17時30分〜20時30分  
 無休  
 ※昼6,000円〜  
 夜10,000円〜  
 完全予約制  
<http://www.eirakutei.com>



(右右)こちの丸仕立て、椎茸、ほうれん草、人参、白髪ねぎの煮物椀。「産卵を終えた瀬戸内のこちは、夏とは違った味わいでおいしい」とご主人。  
 (右)茶懐石は事前にリクエストが必要。

1日目 pm12:00  
 高松市～丸亀市

この味が近所にあつたなら……「永楽亭・富久ろ屋」

**お**

昼は茶の湯を愛するご主人、野原太さんが女将と切り盛りする丸亀市の料亭「永楽亭」へ。高松市から車で西へ40分、茶事をお願いすることもできる茶室で頂く懐石は、瀬戸内の旬をいかしたものの。「海を知り尽くしたお店ならではのおいしさ。おもてなしの姿勢が勉強になります」と大満足のふたり。「干菓子や常時20種類以上あり、ひとつから買えるなんて。お茶が盛ん

な土地だからこそですよね」と大村さん。高松市に戻って訪ねたのは、片原町商店街にある菓子店「富久ろ屋」。1917年創業で、お茶席の菓子といえばここ、と地元の人々に支持されています。

「江戸幕府の親藩の城下町だった高松は、文化の成熟した街。三千家はもちろん、さまざまな流派の茶の湯が盛んです。毎週どこかでお茶席が掛かっていますよ」と店主の木野戸秀行さ



(右)裏千家で茶道を学ぶご主人と。(下)季節ごとに、10種類以上の上生菓子が並び、手前から「木の間の錦」「唐錦」「光琳菊」各157円。干菓子は各47円。



茶の湯アドレス18

**富久ろ屋**

香川県高松市片原町10-16  
 ☎0877-821-3011  
 ⑨9時〜19時  
 休1月1日  
<http://www.tomikuroya.co.jp/>

ん。絶え間なく訪れる地元客に交じり、村瀬さんと大村さんもお土産の菓子を求めました。「生菓子の姿もおいしいですね。ご近所にこんなお店があるのはうらやましい」と村瀬さん。



ひと目見て、欲しいと思える、  
センスのいいきものがたくさん”



(上上) 大きなカウンターでゆっくり  
きものや小物を選ぶことができる。  
店主夫人の蓮井祥子さん(左)の  
日々のきもの着なしも人気。  
(上) 村瀬さんがオーダーした帯は、  
ペルシャの絵皿がモチーフ。  
帯は12万円、きものは  
18万円、が価格の目安。  
(ともに税別・仕立て上がり価格)

茶の湯アドレス 19

**や和らぎたかす**

香川県高松市今新町1-4  
高須ビル12F  
☎087182116341  
Ⓧ10時〜18時 ㊿日・月曜  
<http://www.takasu.cc/takasu-index.html>

**き**ものは卒業』と言っていた知  
人が、こちらでまたきものが  
着たい!と思つたと聞いて。ずっと  
伺いたかつたんです。丸亀町商店  
街に戻つたふたりが向かつたのは、  
1950年創業のきもの専門店「や  
和らぎたかす」。ギヤラリーのよう  
な店内には、店主の蓮井将宏さんが  
日本全国の職人を訪ねて作り集めた  
美しい反物や小物が並びます。  
「東京や京都でもなかなか見つか  
らないような、センスのいいきものや

帯がたくさん。リーズナブルなもの  
嬉しいですね」と大村さん。「お茶会  
で着たいきものなのですが、帯が難  
しくて……」と、村瀬さんは持参の  
きものに合う帯を相談。ふたりとも  
お気に入りの帯が見つかりました。  
「おふたりと作り手の仲人を務める  
ことができ嬉しい。和服は日本の  
宝物。職人の方々の正直な仕事を、  
正直にお客様にお伝えしたい」と蓮  
井さん。旅の始まりである香川での  
一日は、実り多いものになりました。

1日目 pm 17:00  
高松市

# 茶会の きもの熱、 再燃!

「や和らぎたかす」



(左) 京都のガラス作家・  
荒川尚也氏が初めて  
造つた抹茶碗。2階にある  
蓮井さん主宰のギヤラリー  
「ギヤラリーen」では、  
工芸作家の企画展も盛ん。  
(左左)「前柄の幾何学も素敵」  
と並里さん。